NIE実践報告

1．タイトル：自分の食生活を見つめてみよう

2．学校名

北海道教育大学附属釧路中学校

3．実践者名（代表者名）

村瀬　清史

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　39人

6．単元（本時の学習課題）名

日本の農業　食料と農業のこれから

7．目標（狙い）

日本における資源･エネルギーと産業の特色について理解し、現実的に直面する課題について、資料を活用して意欲的に考察しようとする態度を養う。

8．評価の視点

産業が発展した社会的背景や特色から課題を知り、資料を活用して自分なりの考えをまとめ、交流することで意欲的に課題追究しようとしていたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「世界と日本の農業」(教科書教材:教育出版)　(社会:4時間)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)日本の農業の特色や現在抱えている課題を、教科書を活用して学習する。(1時間)
(2)食料自給率の向上をめぐる是非について検証を行う。(3時間)
　a.「食料自給率を上げるべきである」という論題に対して、賛成または反対の立場を機械的に割り振り、立論･反論･結論を資料をもとに考えをまとめる。(1時間)
　b.論題に対するディベート的な活動を行う。(1時間)
　c.学習の振り返りを行い、最終的な考えをまとめる。(1時間)
(留意点)
･新聞記事を含む資料から、論理的な話し合い活動ができるよう支援を行う。
･立論など自分の考えには、必ず根拠となる資料を提示させる。
･現在自分自身の生活と結びつく場面を主張に反映させる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

･自分の生活、特に生きるために必要な食料自給率を上げる是非について、自分の事として考えていた。
･健康志向、食の安全に対する関心が高まっている現在の状況から、興味を持って学習に参加していた。
･理想と現実の狭間で、課題の解決が非常に難しい実情を理解した。

12．成果と課題

･学習対象として現実社会の問題を取り上げ、資料として新聞を活用することは有効であった。
･今を知るためのより身近な資料として新聞を資料として活用することは、生徒たちにとって学習意欲を高め、社会科を学ぶ意義を理解することになった。
･新聞を活用して多面的、多角的に社会的事象をとらえさせるためには、複数紙で授業を行うことのみならず、日常からニーズに応じた新聞記事を選択する機会を逸しないよう注意を払う必要がある。